

今月の重点活動

■夏秋トマト 令和5年度夏秋トマト部会目揃会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会は、7月13日に郡上総合庁舎で目揃会を開催した。今年度は生育が順調に進み、出荷開始は前年並で着果も良く順調な出荷が見込まれている。

今年度の出荷基準について選果場の出荷担当者が実物を使って説明し、生産者の目合わせを行った。

また、全農や市場関係者から全国の出荷動向についての説明があった。農業普及課からは、梅雨明け後の生育管理（かん水、施肥、高温対策等）や昨年一部の生産者で多発し減収要因となった褐色輪紋病の対策についても説明した。

農業普及課では、高値販売が見込める9月以降も収穫量を確保できるよう、各部会員に対して栽培指導を継続する。



【出荷規格を確認する生産者】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■青年農業士 会員相互の経営視察

郡上地区青年農業士連絡協議会では、7月10日、他者の経営を視察して自身の経営に生かすとともに、会員相互の理解と連携を図ることを目的として経営視察が開催された。

今回は、コロナ禍の影響で4年振りの開催となったが、明宝地区の畜産とトマトの経営を視察し、経営概要や将来の夢を語ってもらいながら、会員相互の情報交換を行った。また、次期会員となりそうな若手農業者にも参加を呼びかけ1名が参加した。

今後は、秋の「食の祭典 in ぎふ郡上 2023」に参加し、若手農業者の出展を支援していく計画である。農業普及課は、こうした青年農業士の活動を支援していく。



【経営視察の様子】

■就農支援 農業大学校派遣学習出発式を開催

岐阜県農業大学校の令和5年度先進農家派遣学習（2学年）の出発式が7月24日、受け入れ先の和良町のトマト生産者ほ場で開催された。学生の保護者、郡上市と農林事務所、農業大学校の担当者が出席して同町出身の2学年が1か月間の技術研修を受けるための抱負を述べた。農業普及課からは、暑さが厳しい時期の研修なので体調管理に十分注意するよう、また生産者からは、忙しい時期ではあるがトマト栽培についてしっかり学んでほしいとの言葉があった。

今年度は、9月にも農業大学校1・2学年の派遣学習があり、農業普及課では就農を検討している学生の支援を行う。



【出発式の様子】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■だいこん ひるがの高原だいこんの生育順調

令和5年産ひるがの高原だいこんの出荷が6月15日から始まり、順調に出荷が行われている。梅雨時も雨が継続して降らないこともあり、は種は順調に進められている。

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では女性部・成年部を中心に夏だいこんの販売促進に取り組んでおり、7月中旬には関市・美濃市にあるスーパーマーケットにて試食販売を実施した。試食販売では、消費者へ生食での食べ方を提案し、だいこんの消費拡大につながるよう取り組んでいる。

農業普及課では、ひるがの高原だいこん生産出荷組合の活動を支援し、今後も現地試験及び調査を実施しながら、だいこんの安定出荷や品質の安定を確保できるよう支援を行っていく。

郡上農畜水産物のブランド展開

■水稲 明宝地区 水稲に関する講習会の開催

「めいほう米づくり連絡協議会」の講習会が、7月13日に開催され、会員15名と関係者が出席した。

農業普及課からは、今年の生育状況、生育調査方法について説明し、また土壌診断の結果に基づいた土壌改良を奨励した。JAからは、いもち病防除の徹底、市アドバイザーからは、食味向上に取り組んでいる高山市の事例紹介が行われた。

当協議会は、昨年11月16日に発足し、明宝地区の米づくりの技術向上やブランド化等を目的に活動を展開している。

農業普及課では、当協議会の活動を支援しながら、明宝地区の良質米生産を推進していく。



【講習会の様子】

■夏秋いちご 夏秋いちご出荷検討会を開催

ひるがの高原いちご組合では、7月11日に出荷検討会を開催した。

今年は7月3日から選果場が動き出して本格的に出荷が始まった。検討会では、組合長から今シーズンの安定生産出荷に向けてあいさつがあった他、各市場や農協から情勢報告や販売方針、収穫時の注意点や選果基準などが報告された。農業普及課からは今後の天候や栽培管理、病虫害防除対策について説明した。

農業普及課では栽培管理指導や調査試験を通じて、安定した高品質生産を支援する。



【出荷検討会の様子】